校長室だより

令和２年度
12 月 23 日
ＮＯ．７

『学び合い』の考え方

今日で２学期が終わります。コロナ感染症対策で休校措置がとられ、異例のスタートとなった１学期に比べ、落ち着いた２学期だったと思います。コロナ感染のリスクに配慮するため多くの制限はあったものの、子供たちは通常の学校生活を過ごすことができて本当によかったと喜んでいます。

さて、４月に私が本校に赴任して以来いいなと感じているのは、子供たちの素直さです。小さな学校なので全員の児童がみんなのことをよく知っています。だからみんなが仲間という温かい雰囲気も感じます。長放課などに学年に関係なく遊んでいる様子を見ているとほほえましくなります。「素直な子供たちで温かい雰囲気」。これは秦梨小が誇れることです。また、少人数ですから先生たちの配慮も一人一人に行き届きます。授業の様子を見ていると、先生の指導に応え積極的に学習に取り組もうとする姿も多くみられます。

一方で、授業での課題を自分事としてとらえ、それを解決する方法を自分で考えて判断し、実行していこうとする力がやや弱いかもしれません。いわゆる「主体性」という問題です。この主体的な学びが、これからの社会をよりよく生きていくためのポイントになると言われています。子供たちのよさを伸ばしながら、秦梨教育を通して主体性のある子供たちを育てていきたい。そう私は考えています。

今年度から小学校の新学習指導要領が完全実施されました。そのキーワードは「主体的で対話的な深い学び」です。これにより、今までの教師主導による受動的な学習から能動的な学習への大転換が求められ、そのための授業改善が進められるようになりました。岡崎市教育委員会も「教師による一斉授業からの脱却」をうたっています。

本校では２学期から能動的な学習を促すために『学び合い』（二重括弧の学び合い）の考え方による授業改善に取り組み始めました。これは、信州大学教授の三崎隆先生と上越教育大学教授の西川純先生が中心となって提唱している考え方で、一人も見捨てないことを大切にする教育理念です。『学び合い』では、次の３つの考え方が共有されています。

〇子供観：子供たちは有能である。
〇授業観：教師の仕事は目標の設定、評価、環境の整備を行うことで、教授（子供から見れば学習）は子供に任せるという考え方。
〇学校観：学校は多様な人と折り合いをつけて自らの目標を達成する経験を通して、その有効性を実感し、より多くの人が自分の同僚であることを学ぶ場であるという考え方。

※　三崎隆先生のホームページより抜粋

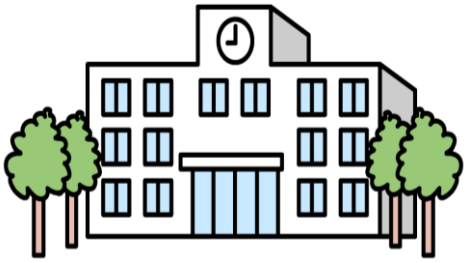
基本的な教師の仕事は、この１時間で「何ができればいいのか」、「何をどうすればいいのか」、全員の子供が分かるように具体的な課題を与え、最後に全員がその課題を達成できたかどうかを評価することです。さらに授業中の子供たちの学びの様子をしっかりと見守り、評価の後にその価値について子供たちに話をします。

一方、子供たちは課題解決のための方法を自分で考え、自分にあったあらゆる方法を駆使して学習活動に取り組みます。ある子は、資料やｉＰａｄを使って一人で解決しようとします。また、ある子は分からないところを友達に聞いて解決します。課題解決へのアプローチは、それぞれ違っていいという考え方です。ただし、全員が課題解決することが条件です。必然的に友達同士で教えたり教えられたりという対話的な活動も生まれます。分かった子（分かったつもりの子）も、分からない子が納得できるように言葉を換えて説明します。それによって本質的な理解をすることになります。得意な子も苦手な子も、互いにとってメリットの多い学習活動と言えます。つまり、『学び合い』の授業では、必然的に子供たちは傍観者ではいられなくなり、全員の学びを充実させることができます。**（※友達に教えるという活動は、学力をより効果的に定着させることになるという科学的検証結果があるそうですが、経験的にも理解できることです。）**

これは、今まで私たちが受けてきた授業とは、正反対の授業の在り方だと思います。教師にとっても大きな価値観の転換を迫られるものです。現在、本校の教職員は、子供の実態に合わせながら、それぞれが納得のいくところで『学び合い』の考え方を取り入れた授業実践に取り組んでくれています。

私は５年前から三崎先生の助言を仰ぐようになり、前任の中学校で『学び合い』の実践研究を始めるようにしました。はじめは、「先生の丸投げ」という御批判をいただくこともありましたが、子供たちは主体的に学習への取り組むようになり実際に学力も伸びてきたことから多くの保護者の皆様の御理解と御支持をいただけるようになりました。昨年度は、市内はもとより県外からの視察も何度か受けましたが、いずれも高い評価をいただくことができました。今では『学び合い』の有用性について確信しています。

本校では、去る 11 月 26 日に岡崎市教育委員会の訪問を受け、全学級の授業参観後、学校運営についてご指導いただきました。また、12 月 4 日に行われた学校関係者評価委員会でも道徳の授業参観後、評議員の皆様から様々なご意見をいただきました。いずれも本校教職員の頑張りを褒めてくださるとともに、秦梨教育が目指す方向性についても御理解と励ましをいただきました。



秦梨小には秦梨小のよさがたくさんあります。「**大きな望み　たゆまぬ努力**」は秦梨小の校訓ですが、他にはない秦梨小の特長を生かした『学び合い』の授業づくりができないかと考えています。そうした大きな望みをもって、今後もたゆまぬ努力をしていきます。30 年後の秦梨小の子供たちが、それぞれに豊かな人生を切り拓いていてくれることを願って止みません。その大本となる資質を秦梨教育で培いたい。「壮大なことを・・・」と笑われますが、そんなことを考えわくわくしているところです。